

优秀作文大全

日语

刘伟 王雅楠 主编

“熟读唐诗三百首，不会作诗也会吟”。古时候莘莘学子读书识字就从熟读开始。同样，日语作文也是如此，迈向成功的第一步，需要从阅读借鉴日本人写的优秀范文开始。



本书共分为7个章节，30个类别，140余篇作文，是从日本近几年来各类作文比赛中精选而来。作文作者以日本的大、中学生为主，内容贴近现代青年的生活。构思新颖，表达贴切细腻，富有感染力。加颜色的段落为每篇的精彩之处，希望广大读者能用心体会并借鉴运用。针对每篇作文都有“佳作点评”，根据文章内容每课提供1-2句的“名言佳句”，以方便广大日语学习者学习和借鉴。

刘伟 王雅楠 主编

日语

优秀作文大全

サンプルから日本語作文
にチャレンジしよう



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语优秀作文大全 / 刘伟, 王雅楠主编. — 大连 :
大连理工大学出版社, 2011. 6
ISBN 978-7-5611-6204-0

I. ①日… II. ①刘… ②王… III. ①日语—作文—
选集 IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 081042 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84703636

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

辽宁星海彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:165mm×235mm 印张:22.5 字数:400 千字
印数:1~5000

2011 年 6 月第 1 版 2011 年 6 月第 1 次印刷

责任编辑:张 凡 责任校对:刘元春 卢士景 孙健淞
封面设计:山野物语

ISBN 978-7-5611-6204-0

定 价:35.00 元

写好一篇日语作文，既是每个日语学习者的梦想，又是困扰每个日语学习者的难题。那么，如何才能用日语写出好文章呢？

关于常规的写作技巧，我想每位学生都比较娴熟，就不多加赘述。在此我想重点谈一下如何写好“日语作文”。

1. 大量积累日语语汇和语法表达；

古语云：“读书破万卷，下笔如有神”、“巧妇难为无米之炊”。这些古训同样适用于日语写作。一个没有任何日语积累的人，即使写作水平再高，也不可能写出一篇日语文章。要想写好日语作文，必须阅读大量的日本人写的优秀作文，要建立在积累日语语汇和语法表达的基础上。语汇是文章的细胞，广义的语汇，不仅指词、短语的总汇，还包括句子、句群。而语法则把词汇转换成语言的血液。在这方面，学习借鉴日本人写的优秀作文是最快捷的方法。

2. 广泛阅读日语文章；

广泛阅读日本人写的优秀作文，并做好读书笔记，把一些优美的词语、句子、语段摘录下来，熟读并化作自己的语言。这样日积月累、集腋成裘，说话就能出口成章，作文就会妙笔生花。涉猎广泛，见多识广，胸中自有“丘壑”。在日语写作过程中，就不会感觉无词可用，写出来的文章也不会干巴空洞，而是洋洋洒洒，言之有物了。



3. 善于思考文章的内涵及其写作方法；

由于国情不同，日本人写的作文会为我们提供观察问题的多面视角。大量阅读，日语知识自然就会十分丰富。在我们阅读这些日语优秀作文时，要去思考文章的内涵及其写作方法，去揣摩作者的思路，再把其中好的方面运用到自己的作文中，写出来的作文自然就会熠熠生辉了。

4. 善于模仿勤动笔。

鲁迅先生在回答文学青年“如何才能写出好文章”的问题时强调了两点：一是多看，二是多练。我认为，这里的“多看”包含对优秀文章的阅读，而“多练”则是在前者基础上的实际应用。

本书收集的140篇左右作文，是从日本近几年来各类作文比赛中精选出来的，作文作者以日本的大、中学生为主，内容贴近现代青年的生活。构思新颖，表达贴切细腻，富有感染力，而且词汇丰富优美，不失为我们学习模仿的典范。特别是文中加颜色的句子和段落，是每篇文章的精彩之处，希望广大读者能用心体会并借鉴运用。本书编者针对每篇作文都做了“佳作点评”，根据文章内容每课提供1-2句的“名言佳句”，以方便广大日语学习者学习和借鉴。

“熟读唐诗三百首，不会作诗也会吟”。古时候莘莘学子读书识字就从熟读开始。同样，日语作文也是如此，迈向成功的第一步，需要从阅读借鉴日本人写的优秀范文开始。希望本书的出版能够有助于广大日语学习者提高写作水平。

刘 伟

于天津大学

目 录

家庭亲情篇

家族の味 /002
大切にしたいもの——家族 /005
家族、そして「ふるさと」/008
味噌汁の愛情 /011
五人そろって家族 /014
絆 /017
私の家族 /020
雛人形に込められた優しさ /022

ありがとう、と伝えたい /025
僕んちのお父さん /028
愛の一言 /031
父のメッセージ /033

一粒の涙と奇跡 /036
心をつなぐもの /039
僕の朝 /042
たった一言の親切 /045

私の前を「走る」兄 /047
新しい家族 /049



人际关系篇

温情、体贴

「手を振る」という親切 /054
自動販売機 /056
「あ・い・が・と」と「がんばれ」/058
轍の心 /060
不思議な魔法 /062
心が豊かになれるチャンス /064
自転車ドミノ /066

互助、鼓励

二つの経験から学んだ大切なこと /068
小さな親切が大きな支えに /071
輪の中で生きる /073

怀念、喜悦

もう一度会いたかった /076
ご近所さんに「ただいま」/078

纯真、交流

私の言葉で /081
ごめんなさいの一言 /084
形の無い宝物 /087
あいさつから始まる心の輪 /089

恩师、朋友

私を支えてくれる親友 /091
友へ /094
笑顔の中の思いで /097
出合いの奇跡 /100



社会问题篇

学校教育

いじめに立ち向かう勇気を持とう /104
味方の存在 /107
伝えてください /109

社会問題

温かいまなざして /111
幸せに生きるお手伝い /113
深刻な高齢化社会問題 /115
福祉施設での交流体験 /117
「アクシデント」が教えたもの /120

生命

今を生きる /123
小さくても同じ命 /125
かけがえのない命 /127
飲酒運転のない社会に /129

労働、工作

ニートへの偏見と可能性 /131
一人じゃいられない症候群 /133
姉が教えてくれたこと /135
働いて得るもの /137

戦争、平和

戦争を知らない私が伝えたいこと /140
平和について /143

社会実情

地域～助け合う集団 /145
経験から学んだこと /148



人生理想篇

夢、挑戦

セミと過ごした夏 /152
もう一人の自分に負けない気持ち /154
二人三脚 /157
挑戦からの宝物 /160
この夏頑張ったこと /163
火祭りで /165

芸術、愛好

バレエと共に /168
私の宝物 /171
読む・書く・生きる /174



梦想、未来

お気に入りの一品をあなたに！ /177
私のドレスで幸福を /179
めざせ！日本一の畜産農家 /181
私の夢 /184
私の夢 /186
私の夢 /188
僕はやっぱり医者になる /191
ドン底をきっかけに見つけられた夢 /193
医師を目指して /195
憧れの仕事 /197
夢の実現に向けて /199



环境保护篇

珍惜水源

残菜○の秘密 /204
かけがえのない水 /206
大好きな都幾川を守るためには /208
荒川とともに /210
長池の水 /212
おばあちゃんの井戸 /214

节能减排

地球にやさしい生活 /216
ストップヒートアイランド /218
省エネのすすめ /220
祖父母という光 /222
よみがえれ、エコ交通網 /224
省エネに燃えた夏 /226
毛布スカートは地球を救う？！ /228
地球温暖化防止のための私の提案 /230

垃圾处理、回收

ゴミのダイエット /232
平塚市におけるリサイクル推進の試み /234

努力、希望

- 微力だが無力ではない /237
地球が望んでいること /239
きらめく星空計画 /242
情熱を持て！明日のために木を植える /244
未来の私と仕事
～『地球』の役に立ちたい～ /246
ホタルと生きる /248



国際交流篇

国際合作、支援

- 国際識字の10年すべての人に教育を！ /252
国際識字の10年すべての人に教育を！ /254
三本木の夢 /256

国際交流、理解

- 心のつながり /258
愛に満ちた世界への第一歩
～私と出会った人々とともに～ /261
私が考える国際理解について /264
国際交流はまず日本を知ることから /266
国際交流とは /269
青い目も黒い目も /271
東南アジアのコミュニケーション /273
提案！教育に望み有り /276
ファスィに教わった「幸せ」 /279

国際問題

- 地球に平和が訪れる日を目指して /281
平和はみんなが望むもの
－アイデンティティの在りか－ /283
私が体験した国際交流 /286
真の国際交流と平和 /289
生きる幸せ /291
不平等な命 /293
大切なのは、知ること、伝えること /295
国連改革・もしも私が国連職員なら /298



其 它

传统工艺、文化

伝統的工芸品の思い出とメッセージ /302
駆け出せイタヤ馬 /304
私達の町の伝統工芸品 /307
全国へ広がれみんな一織り /309
和太鼓を通じて /311
爪にまつわること /314

自然風景

私の通学路 /316
私を流れる川 /318
輝く猪苗代湖 /321
石神井公園の自然 /323

科学知識

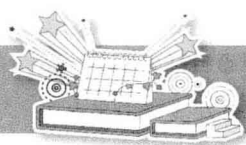
りんごジュースの秘密 /325
グレープフルーツの皮の不思議 /327

书信

宮之城の皆さんへ /329
お姉ちゃんへ /332
力をくれた高橋尚子様 /335
私を大きく変えてくれた明石先生へ /338

读后感

しがまっこを溶かす笑顔
——『しがまっこ溶けた：詩人桜井哲夫との歳
月』を読んで /340
至誠
——『松陰読本』を読んで /343
『種をまく人』を読んで /345
平和な未来のために
——『ヒロシマあの時、原爆投下は止められた』
を読んで /348



家庭

亲情篇



本文围绕「料理」展开，通篇充满了温馨的家庭气氛。作者还进一步分析到家庭犯罪的原因之一是家人之间缺乏交流和沟通，并提出通过「家族で夕飯を食べる日を作る」等方式来解决这一社会问题，虽稚气未脱，却新颖独到。既有饭菜的香甜，又有亲情的温暖，这才是「家族の味」。

本文语言自然亲切，字里行间饱含深情。如第三段的加颜色的部分，通过简单的描写，表现了全家人一起动手准备过年的样子，日本传统的「お正月」跃然纸上，家庭的和谐温暖也如在眼前。

むかごご飯。あのほくっとした芋にもいた味と香り。口に広がる自然の甘味。私にとって秋の楽しみの一つです。むかごは、山芋のつるになる小さな実で白米と一緒に炊くと、とてもおいしいのです。

我が家では、季節や行事のたびにおばあちゃんが色々な料理を作ってくれます。お正月は、お節料理、お雑煮や七草がゆ。春は竹の子ご飯。わらびやみずのおひたし。秋は栗ご飯。常に季節の味が食卓に並びます。

どの料理も私は作れるようになりたくて、一緒に台所に立ちます。中でもお節料理は気合いが入ります。小さい頃から一緒に作っていたので、今では私も栗きんとんや、菊花かぶが作れるようになりました。他にもあんこを練ったり黒豆を煮たり、私と母とおばあちゃんはたくさんの料理を作ります。料理の間、おじいちゃんは家のまわりをきれいに掃除したり、神社にお札をもらいに行ったりします。お父さんは山から松と竹をとってきて門松を作ります。お正月は家族みんなで準備をして迎えるのです。我が家がたぶんずっと続けてきた光景です。我が家ではお正月や行事でなくても家族でごはんを食べることを大切にしてきました。それも、季節の山菜や畑でとれた新鮮な野菜が中心のメニューでどれも手作りで。

最近、世の中では、子供が実の親を殺したり、親が子供を殺す事件が起きています。ニュースを聞いたときに私は「どうしてこういう事件が起きてしまうのだろう。」と悲しくなります。このような事件はゲームに夢中になりすぎたり、あふれる情報が原因だとも聞きます。でも私は「食事」にも深く関係していると考えてい

ます。悲惨な事件の背景には、子供がいつもおなかをすかせていたとか、あまり家族の会話がなかったなどということが多いようです。もし、食事を家族と一緒にする毎日の暮らしがあったら、自然に会話も生まれるはずで。食事を一緒に作るとか食べるということは家族の基本だと自分の生活から感じています。私たち家族にはあたり前の生活も、社会全体からみると少なくなっているようです。何か解決策がないかと私なりに考えてみました。例えば会社も学校もお店もすべて休みの日を作る。お店の二十四時間営業や年中無休をやめる。テレビを見ない日や家族で夕飯を食べる日を作るなど。お父さんやお母さんも家でゆったりしながら「家族で食事」ができると思います。現実にはなかなか難しいでしょうが国全体が食事を見直す工夫が必要なのかもしれません。

そうはいうものの中学三年生の私自身忙しくて竹の子やぐみの実をとって食べることや、ゆっくり台所でお手伝いという暇もありませんでした。

私はこの夏、ホッケーで全国大会に出場しました。それまでの練習は決して楽ではなく、夏休みも毎日朝から晩までホッケーです。遠征や練習試合も何度もありました。この夏の猛暑の中、毎日の練習メニューは心にも身体にもこたえました。疲れて家に帰って何より楽しみなのはおいしい晩ごはん。畑でおいちゃんが育てたなすの揚げ煮やささげのしょうがあえ、まっ赤なトマトのサラダ。忙しすぎて季節を感じる余裕さえ失くしていた私のために、おばあちゃんが庭で摘んできたぐみの実も食卓に出ています。私が夏の暑さに負けないようにと、愛情とエネルギーいっぱいのごはんです。

次の朝には、私がどんなに早く家を出るときでも、お母さんが私の体調を考えた手作りのお弁当を持たせてくれます。疲れた時に食べる家で作ったごはんは、お店で買ってきたどんな豪華なおかずよりずっとおいしくて、励まされます。「頑張れ」「疲れていないか」という言葉もうれしいけれど、家族の愛がつまったごはんやお弁当は、私の心まで元気にしてくれる「家族の味」でした。そんな家族の味があったから、全国大会へも行けたのだと思います。

毎日の食事は出されてあたり前、家族みんなと一緒に食べるのもあたり前の我が家。でも、本当はそのあたり前に大切なことがいっぱいつまっています。料理に込められたたくさんの想い。それは、お節料理のような特別な料理だけでなく毎日の



ごはんにもこもっています。その想いのこもった家族の味は、おばあちゃんからお母さん、お母さんから私と受け継がれています。そしていつか、自分の子供にも家族の味を伝えていきたいと思っています。

秋になり、選手としては一段落した最近の私、受験生だから、本当は勉強をしないといけないところです。でもそろそろ、栗ご飯やむかごご飯を台所で作る楽しさがなつかしくなってきました。明日晴れたら、おばあちゃんを誘って山に行こうかな。

名言佳句

➤ 居心地よい家は幸福の偉大な源である。これは健康と良心に次いで重要である。

令人心情舒畅的家庭是幸福最大的源泉。它的重要性仅次于健康和良心。

➤ 王様であろうと、百姓であろうと、自己の家庭で平和を見出す者が、いちばん幸福な人間である。

无论是国王还是百姓，在自己的家庭中找到和平的人，就是最幸福的人。

这篇文章开头很精彩，读者会产生一个疑问：作者为什么这么后悔呢？带着这种疑问，引出有关家人的话题。作者求胜心太强，导致压力过大，无端地冲家人发火，最后比赛失败，在沮丧时，得到了家人一如既往的支持和鼓励。表现了亲情的可贵和家庭的温暖。

文章语言流畅，充满了真情实感，心理描写尤其出色。例如开头加颜色的部分，真实贴切地表现了作者无比后悔的心情。

大切にしたい
もの——家族

それは、一瞬にして終わった。悔やんでも、悔やんでも、悔やみきれないほど、私は落ちこんでいた。今まで、これほど後悔した事があっただろうか。タイムスリップしたかった。涙がふいてもふいても流れ落ち、はずかしいけれど、どうする事も出来なかった。入賞した妹のトロフィーが、とてもまぶしくて、しっかり見る事が出来なかった。

その日は、ピアノのコンクールで、私にとっては、特別な日だった。私は、少しおそめの小学三年生のころから、ピアノを習い始めた。早く習い始めた同級生の子に追いつきたかったし、少しでも上手になりたいくて一生懸命練習してきた。そのかいがあって、四・五年生の時は、このコンクールに出場して、入賞も出来たが、昨年は入賞を逃してしまった。そのため、「今年こそは絶対に！！」と思って練習を続けてきた。でも、中学生になって、部活や勉強がいそがしく、思うようにピアノが弾けず、あせっていた。正直言って、部活も勉強もピアノも、何から手をつけていいのか、戸惑ってしまい、何をしても身が入らなかった。ピアノを練習していても、以前のようなコンクールに対する情熱がなくなって、自分でも大丈夫かな、と不安でいっぱいだった。両親に話しかけられても、イライラして、無愛想な返事をしたり、注意されて、心の中では分かっている、素直になれず反発したり、時には、妹にひどい事を言って泣かしたり、家族に思いっきり当たり散らしていた。その間、つかれて何度か体調をくずして大変だったけれど、何とか、曲を仕上げる事が出来た。

家庭亲情篇

人际关系篇

社会问题篇

人生理想篇

环境保护篇

国际交流篇

其他

いつもより緊張せずにステージに上がり、前半も思うように指が動き、快調だった。しかし、次の瞬間——、演奏は止まった。足が吸いこまれて動かない！ドキドキと絶望で、頭の中が真っ白。足が滑って、ペダルのすき間にはさまったと気が付くまで、呼吸が出来なかった。でも、「何とかしなくちゃ。」投げ出したい気持ちを抑えて、その後、弾き始めたけれど、何をどう弾いていたかは、覚えていない。ステージを降りるまでは、ショックで、感情のないロボットみたいだったのに、席に着いたとたん、涙があふれ出てどうしようもなかった。自分の事でこんなにくやしくて、情けない事があっただろうか。私の記憶の中では、初めての体験だったと思う。

全てが終わって、結果是最悪だった。このごろ、ずっと機嫌の悪かった私に対して、両親は、いつもと変わらない様子で、

「おつかれ様。今晚は、何が食べたい。」

と優しく話しかけてくれた。少し胸がつまった。今までの中で、一番良い成績だった妹は、きっと、うれしくて、飛び跳ねたい気持ちだったに違いない。けれど、私に気を遣っているのか、とてもひかえめだった。今まで、私が家族にとっていたわがままな態度を、だれも責めたりしないのがつらくて、何も話せなかった。

私の頭の中は、思い出したくもないのに、あのコンクールの事でいっぱいだった。机に向かっていてもボーッとしていて、無意識に涙が流れてきた。となりの部屋にいた母に、

「もう、ピアノはやめる！！」

と、やけくそになって言うと、母は少し怒ったように

「ピアノは、コンクールのために続けてきたの？何か、前の裕生とは違うよ。」

と、言った。

「えっ、そういうわけじゃないけれど…。」私は少し驚いた。でも、言われてみれば確かに、最近の私は、入賞する事ばかり考えて、ピアノを楽しいと思う事もなかった。始めたばかりのころは、レッスンの日が待ち遠しくて仕方がなかった。今は、何もかもがいっぱいで、余裕もなく、必要最低限っていう感じだ。それから、母は言った。

「今回の事は、決して無だな事じゃないよ。落ちこまなくていいんだよ。また、目標を決めて新しくスタートすればいいじゃない。お父さんもお母さんもみんな、裕